

SDGs・岩手町 ひとと文化を大切にす教育のまち

岩手町中央公民館



公民館の沿革・年表

- 平成11年 ゆはず交流館
(岩手町中央公民館・図書館・沼宮内児童館) 開設
- 平成12年 ゆはず町民大学講座を開設
- 平成14年 第1回「里川キャンプ」開催
(中央公民館主催は22年度から)
- 平成15年 公民館まつりを開催
- 令和4年 2022いわてモルックオープン大会を開催

左図・写真の説明等など (PRポイントなども可)

- 「2022いわてモルックオープン大会」
令和4年6～10月に月1回開催。県内から16チーム約100人が日浮島小学校においてリーグ戦を行った。年齢性別問わず楽しめるため、町内の競技人口も急増中。令和5年は引き続き「2023いわてモルックオープン大会」を開催したほか、8月には日本モルック協会公認大会を県内初開催する。
- 令和4年度「里川キャンプ」
令和4年7月に3日間デイキャンプで開催。近隣市町などから参加の小学生79人が築場見学やキャベツ収穫、水生生物調査や川遊びを行い、南山形地区の自然を体感。学区を超えた交流や同地区の魅力に触れる良い機会となった。令和5年度も7月に3日間で開催予定。

1. 都道府県名	岩手県	3. 公民館対象人口	12,043人	5. 来館者のインターネット接続環境	無線LAN (Wi-Fi等)	
2. 市区町村名	岩手町	4. 建物設置年月日	平成11年6月1日	6. 来館者のインターネット接続最大端末数	50台	
7. 運営主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村教育委員会	<input type="checkbox"/> 指定管理者 (<input type="checkbox"/> 地区まちづくり協議会)	<input type="checkbox"/> その他 ()			
8. 来館者数	<input checked="" type="checkbox"/> 学級・講座 1,498人 <input type="checkbox"/> その他 0人 ()	<input checked="" type="checkbox"/> 貸館、サークル活動 2,029人	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会、展示会等 1,129人	合計 4,656人		
9. 職員数	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 3人 (職員のうち社会教育主事有資格者の数 2人)	<input type="checkbox"/> 兼任	<input type="checkbox"/> 非常勤 0人	<input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人	合計 3人	
10. 予算	<input checked="" type="checkbox"/> 市区町村予算 <input type="checkbox"/> 委託金 <input type="checkbox"/> 自治組織等予算 <input type="checkbox"/> 寄附等 <input type="checkbox"/> その他 ()					
11. 公民館運営審議会	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> その他 ()					
12. 公民館が実施している、もしくは、関わっている取組・事業の分類	<input type="checkbox"/> 子育て支援 <input checked="" type="checkbox"/> 若者のまちづくり参画 <input checked="" type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> ボランティア養成 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 家庭教育支援 <input checked="" type="checkbox"/> 健康づくり <input checked="" type="checkbox"/> 防災 <input checked="" type="checkbox"/> 地域資源を活用したまちづくり	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの体験活動 <input checked="" type="checkbox"/> 高齢者の学び支援 <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動 <input type="checkbox"/> 日本語を母語としない住民の学び支援	<input type="checkbox"/> 子ども食堂 <input type="checkbox"/> 障害者の学び支援 <input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール <input type="checkbox"/> 自主夜間中学		
13. 施設の特徴、魅力	<input checked="" type="checkbox"/> 複合施設 (<input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 生涯学習センター <input checked="" type="checkbox"/> その他 (児童館)) <input type="checkbox"/> 自由記述 ()					
14. 各種事業等で連携・協働している団体等 (団体名記述)	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚園・保育所 <input checked="" type="checkbox"/> 小中学校 <input checked="" type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input checked="" type="checkbox"/> NPO <input checked="" type="checkbox"/> 各種団体 <input checked="" type="checkbox"/> 行政機関 <input checked="" type="checkbox"/> 図書館 <input type="checkbox"/> 博物館 <input type="checkbox"/> 青少年教育施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (岩手中央幼稚園、沼宮内保育所、川口保育所、一方井保育所、水堀保育所、城山保育園、沼宮内小学校、川口小学校、一方井小学校、沼宮内中学校、川口中学校、一方井中学校、沼宮内高校、NTT東日本、NPO法人岩手町国際交流協会、いわてまち女性の会、南山形地区自治振興会連絡協議会、岩手町立図書館、大野☆ドリーム)					

岩手町中央公民館 (ゆはず交流館)

OPEN 8:30~22:00 H P <https://town.iwate.iwate.jp/town/accessmap/yuhazu-koryukan/>
TEL 0195-62-2877 SNS 無し



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

岩手町は、盛岡市の中心から北へ30キロ、北緯40度に位置する、「北上川の源泉のまち」、「彫刻のあるまち」、「ホッケーのまち」などさまざまな顔を持った、野菜の生産量も多い自然豊かな町である。

しかしながら、町でも少子化⇒児童数減少⇒小学校閉校の流れを止められず、世代間交流の機会も減少。ここ数年においてはコロナ対策も重なり、地区民の交流の場も減少傾向となっている。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【里川キャンプ】

魚種が豊富な丹藤川が流れ、町内でも屈指の自然に恵まれた南山形地区において、閉校した小学校校舎の利用促進と、同地区の大自然の中で体験活動をすることで、児童の健全育成を図ることを目的に、平成14年から開始。平成22年度より中央公民館主催で実施。

《主な体験活動》築場見学、キャベツ収穫、野外炊飯、水生生物調査、川遊び
 《体制づくり・取組の実施》◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担
 ・南山形地区各種連絡協議会（周辺整備、昼食づくり指導）、岩手県自然観察指導員（川の安全教室）、キャベツ栽培農家（キャベツ収穫）

【いわてモルックオープン大会】

里川キャンプ同様、閉校した浮島小学校の利用促進と地域活性化を図るため、令和3年の体験会を経て、翌年は6～10月の月1回と冬に大会を開催。

《体制づくり・取組の実施》◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担
 ・下浮島自治振興会（会場維持管理等）、大野☆ドリーム（指導、運営協力）



里川キャンプ（築場見学）



里川キャンプ（川遊び）

3. 取組による成果や効果

【里川キャンプ】○令和4年は日数を3日に増やし、近隣及び鉄道沿線市町の児童を対象を拡大したところ、全日定員を超える申込み・参加者となった。児童が自然の中で体験活動をする機会、また学区外を超えて交流の輪を広げる貴重な場として認識されている。
 ○地域住民を公民館がコーディネートし、大人が仕事や得意分野で子どもと一緒に活動する場が増え、世代間交流に繋がった。また大人側に成長した元参加者が携わるなど、地域貢献にも繋がった。

【いわてモルックオープン大会】○簡単なルールで性別年齢問わず楽しめる競技のため、公民館事業に留まらず地区行事などに取り入れられ、町内でも競技人口が急増している。
 ○大会には町外から参加したチームもあり、今後も交流人口増加が見込まれる。また、賞品に地元の収穫野菜などの特産品も取り入れ、町産品PRに繋がっている。



いわてモルックオープン大会



冬のモルック大会

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

事業評価については、3名の評価委員に教育委員会の事務事業評価をお願いしており、公民館事業についても5段階で評価いただいている。また、全体の事業については、公民館運営審議会の中で評価検証が行われ、次年度の事業に活かしている。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

少子高齢化は全国的な課題であり、地域の子どもの触れ合いの機会は限定的になってきている。そのような環境において、体験活動や団体生活等を通じた自己肯定感、自己有用感の醸成は子どもの成長にとって欠かせないものとする。また、それを支え活躍する大人も必要不可欠である。公民館では、交流人口の増加を目指し、町の中だけでの活動ではなく、事業の募集や活動の場の範囲を拡大し、子供たちの成長に寄与していくことが大切だと考えている。



ハイキング

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

公民館が核となり、地域住民の主体的な活動の支援や、地域人材の効果的コーディネート、または関係機関との連携促進を実施していきたい。



サコッシュづくり